

社会貢献活動について

本学は、多摩という名を冠した大学として、「ローカルティエ（地域性）」を大切に、多摩に関する地歴的アプローチに基づく研究を深めながら、地域に根ざすことを最重視している。また、多摩グローバル人材を育成するべく、グローバリティエはローカルティエとの相関の中でこそ意味を持ち、多摩という地域性を深化させる中で「世界とのつながり」を持つものである。そのためには、単に地域活性化をおこなうということのみならず、グローバリティエの追及と足元をみつめる「多摩学」を通じたローカルティエの追求は両輪であり、本学のアイデンティティを高めるためにも不可欠である。本学の地域・社会貢献については、以下の事項を中心に着実に成果を積み重ねている。

(1) 地域活性化マネジメントセンター

全学組織である「地域活性化マネジメントセンター」は、地域の問題・課題を診断し、その解決を図り、地域の持続的発展に寄与する人材育成と、地域連携・地域貢献を目的とし、それらの情報が集約されている。

<http://www.tama.ac.jp/guide/managementcenter.html>

(2) 総合研究所

地域に根ざして活動してきた総合研究所の活動を、地域活性化センターの活動と連携させることで相乗効果を生み出し、大学としての地域貢献活動を充実したものにしている。

地域の問題を様々な経営の手法を用いて解決し、持続可能なものにしていく「地域経営」に関する研究を推進する総合研究所では、多摩地域を中心としながらも、福島県など多摩地域外もフィールドとし、地域との協力関係を基礎に様々な活動を展開した。行政との共同研究事業としては、多摩市創業支援施設「ビジネススクエア多摩」入居者 27 事業者（個室 13、ブース 14）に対し、ビジネスマッチングや戦略構築支援などを実施した。特に今年度は入居者へのビジネス支援と創業潜在層への働きかけを重視した。加えて、瑞穂町の産業振興ビジョン策定、調布市の事業承継支援など、多摩地域内の基礎自治体の産業振興策の企画・立案に深く関わった。一方、地域企業との共同研究事業としては、シニア層をターゲットとしたビジネスモデルの構築支援などを実施したほか、多摩地域以外にも目を向け、福島県の道の駅を活用した農村・都市交流事業を支援した。

<http://www.tmuri.jp/>

(3) 地域公共団体および地域企業との連携

【経営情報学部】

平成 22(2010)年 10 月に本学・多摩市・多摩信用金庫の三者による「多摩市創業支援事業連携協定」が締結された。経営情報学部では、この締結を基礎として、様々な連携・プロジェクトを実施してきている。平成 24(2012)年度においても、全学組織である地域活性化マネジメントセンターを中心に、多摩地域を主なフィールドとして多種多様な地域プロジェクトを担うゼミ活動を行った。具体的な内容は以下のとおりである。

① プロジェクトゼミナールでの地域活動

地域企業との提携教育プログラムとして、以下のプロジェクトゼミナールを開講した。

・平成 22(2010)年春に本学の有志の学生により組織された多摩市の地域活性化を目指す団体「Tamauni」は、松本プロジェクトゼミとして活動をおこない、平成 23(2011)年の多摩市市制 40 周年記念事業のひとつとして、多摩市との共同でハッピーフォトモザイクを製作するなどの実績を持つプロジェクトである。平成 24(2012)年度も、9 月 22 日、23 日に開催された「永山フェスティバル」、平成 25(2013)年 2 月 2 日に開催された「スポーツ祭東京 2013」のプレイベント「ゆりーとダンスコンテスト」など、様々な地域のイベントに参画した。

・「スポーツマーケティング実践講座」では、サッカーJ2リーグの横浜FCと提携し、10 月 14 日、ニッパツ三ツ沢球技場にてサッカー講座やミサナガ教室などのイベントを実施するとともに、広報支援を実施するなど、学生が横浜FCを実践活動の場としてサッカービジネスの研究・実践を行った。

・「多摩の地域ビジネス」では、地元多摩地域のサンリオピューロランドと提携し、12 月 16 日に「さんたま夢物語～こどもの国をめぐる☆～」と題したサンリオピューロランドの課題解決イベントの企画・運営を行った。

② 「地域プロジェクト発表祭」の開催

プロジェクトゼミナールだけでなく、ホームゼミナールにおいても、地域社会との協力関係による活動を多数実施している。こうしたホームゼミナールにおけるプロジェクト活動は、「プロジェクト型地域学習」としておこなわれ、多種多様なプログラムの内容及び成果を「地域プロジェクト発表祭」において発表している。

平成 21(2009)年度より毎年開催し、年を追うごとに地域住民の方や行政、企業の方との関係も密接となり、地域貢献活動としても深化している。平成 24(2012)年度は、帝塚山大学および城南静岡高等学校からの招待発表を含め、合計 26 のプロジェクトが発表した。

<http://www.tama.ac.jp/guide/managementcenter/2012project.html>

③ 「多摩学」の研究

多摩学研究会における教職員協同の研究、インターゼミ(社会工学研究会)における共同研の継続、正課授業における「多摩学」科目の設置など、教職員・学生の参画による幅広い教育・研究活動が展開されている。

【グローバルスタディーズ学部】

① 「藤沢市と多摩大学との連携等協力協定」に基づく藤沢市、藤沢市教育委員会、周辺大学との連携により、協力関係(「湘南藤沢コンソーシアム」)が構築され連携の実績を積み上げている。

・地域の教育委員会、小中学校、警察等との連携 藤沢市教育委員会との連携で、藤沢市内公立小学校5・6年生のALT授業の補助として、学生によるボランティアを実施して3年目に入った。一方で、藤沢市教育委員会公認のもと、近隣の六会中学校では、留学生が半年間在籍するにあたり、中学の通常授業の通訳として3人の学生ボランティア活動を行った。

・近隣の六会小学校では、軽度の発達障害のある児童のフォローとして1人の学生がボランティア活動を行った。

・六会中学校を中心とした「学園都市むつあい協力者会議」には、参加6年目となり、月1回の会合(情報交換会)を行うほか、六陵祭(六会中学校学園祭)に参加し、また本学の学園祭で同校の吹奏楽の演奏を行うなど、学園都市としての交流が活発化している。

②神奈川県警及び藤沢北警察署との協力のもと、平成 23(2011)年に学生防犯パトロールボランティア「たまパト隊」を立ち上げ、着実に地域に浸透している。平成 24(2012)年度は、周辺の地域に止まらず、藤沢市内のNPO法人による研修会及び、鶴沼地区で開催された KEP3 校連絡協議会に参加し、活動報告を実施した。また、奈良県警の取材を受けるなど、他県からの注目度もあった。

③ 地域学校間の連携にあたっては、平成 23(2011)年度から六会地区学校安全ネットワークに加盟し、平成 24(2012)年度においても引き続き地域学校間の連携を推進したが、これに加えて平成 24(2012)年度は新たに湘南台地区子ども安全ネットワークに加盟し情報の共有を進めている。

④ 藤沢市青少年たばこ対策委員として、平成 23(2011)年より保健所との連携を行った。

⑤ 藤沢市主催イベント等への参画

藤沢市のイベントでは、平成 23(2011)年度に続き「藤沢市民まつり」、「遊行の盆」、「湘南台まつり」、「湘南台ファンタジア」、「湘南台イルミネーション」、「クリーンアップ作戦」において、企画・運営に学生が携わり、ボランティア参加者数を大幅に伸ばしている。特に平成 24(2012)年度は「藤沢市民まつり」の実行委員となり、協力体制の強化に努めた。また、「湘南台七夕まつり」「藤沢夏まつり」「湘南藤沢たから市」「湘南台東口商店街お楽しみ市」「wakuwaku お楽しみ会」「藤沢宿まつり」「かながわ女性センター30周年記念事業」に新規協力参加、より一層の地域貢献を進めている。

⑥ 藤沢市の環境問題、健康なからだづくりをテーマとした「藤沢の地産地消レシピコンテスト」「藤沢市地球温暖化対策地域協議会」に参加した。

こうしたイベント等への学生参加者は以下のとおりである。

平成 23(2011)年度 → 平成 24(2012)年度

・藤沢市民まつり	2人	→	17人
・遊行の盆	4人	→	13人
・湘南台ファンタジア	5人	→	35人
・湘南台まつり	13人	→	17人

(4)「寺島実郎監修リレー講座」

現代世界解析講座(特別講座Ⅰ・Ⅱ)

寺島実郎監修リレー講座「現代世界解析講座」(授業科目名:特別講座)は、履修科目としている本学学生と地域住民550人(1回当たり)が一堂に会し、時代に発信する識者の生の声を聞く公開講座である。「世界潮流と日本の進路」を軸に、国際情勢、経済、国内行政、IT、歴史など各分野における精鋭の専門家を講師として招く、通年(春学期・秋学期)の体系的なプログラムである。平成 20(2008)年4月に開講し、平成 24(2012)年で5年目の開講となる。

各界の碩学の講師を迎え、リレー講座として日本と世界の置かれた歴史的位相を、多面的な視点から再検討し、その今日的課題を解決するプログラムを構築する講座。半期12回、年間24回の講座として開講。各期300人を地域の方に開放し、大学の公開講座として地域に貢献している。平成20(2008)年度より開講した「寺島実郎監修リレー講座」は、地域の方々など一般受講者の受講も可能としている。同講座は、春学期・秋学期の各12回、年間24回の講座を各期300人の募集定員として一般公開し、常に定員を満たしている。一般参加者のリピーター率が約80%であり、特に多摩地域の方には、毎回出席される方も多く、好評を得ている。この講座は、平成24(2012)年度に5年目を迎え、これまでの聴講者も、一般受講者・学生合わせてのべ60,030人となった。平成24(2012)年度の聴講者は、一般受講者・学生合わせて、11,54人であり、このうち春学期は321人、秋学期は295人が一般受講者であった。平成24(2012)年度の内容としては、「3.11の衝撃、そして世界の構造変化—我々はどこに向かうべきか—」と題し、日本および世界の将来展望や時代認識の深化につながる様々な議論が展開された。